

令和８年度
文京区学生と創る
アグリイノベーション事業
概要説明資料

令和８年10月８日（木）

盛岡市　玉山総合事務所　産業振興課

文京区学生と創るアグリイノベーション事業の概要

1　盛岡市の農業の現状について

2　「文京区学生と創るアグリイノベーション事業」について

3　当事業において学生の皆様に期待すること

1　盛岡市の農業の現状について

【盛岡市の基幹的農業従事者数の推移について】

自営農業に主として従事した世帯員のうち、普段仕事として主に自営農業に従事している基幹的農業従事者は、平成27年以降減少傾向にあります。また、年齢階層別に見ると、70 代以上の割合が上昇し続けており、令和７年における基幹的農業従事者の平均年齢は、平成27年から1.3 歳上昇し、68.4 歳となっていることなど、農業生産基盤の維持に向けて若手就農者の確保や生産性向上への取組が急務となっています。

	総数	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	平均年齢
H27	4,093	52 (1.3%)	130 (3.2%)	155 (3.8%)	537 (13.1%)	1,356 (33.1%)	1,863 (45.5%)	67.1
R２	3,142	25 (0.8%)	97 (3.0%)	157 (5.0%)	291 (9.3%)	1,014 (32.3%)	1,558 (49.6%)	68.1
R７	2,576	20 (0.8%)	82 (3.2%)	173 (6.7%)	202 (7.8%)	638 (24.8%)	1,461 (56.7%)	68.4

資料：令和８年度盛岡の農林業

・基幹的農業従事者の減少により、農業生産基盤の持続可能性が棄損される危機に瀕している。

・後継者不足と著しい高齢化により、担い手不足だけではなく、耕作放棄地の増加等の問題も生じている。

1　盛岡市の農業の現状について

【盛岡市の農産物販売金額別農業経営体数の推移について】

盛岡市の農業経営体は、令和７年時点で1,792経営体であり、平成27年の2,866経営体と比較して約37%減少しております。これは農業経営体のほとんどを占める個人（販売農家が主）の減少によるものです。また、令和７年は農業経営体1,792経営体のうち、約80%が500万円以下の販売金額となっています。

	総数	販売のなかった経営体数	販売のあった経営体数	～100万円	～300万円	～500万円	～1,000万円	～5,000万円	5,000万円～
H27	2,866	354	2,512 (100%)	1,372 (54.6%)	613 (24.4%)	222 (8.8%)	171 (6.8%)	120 (4.8%)	14 (0.6%)
R２	2,249	146	2,103 (100%)	930 (44.2%)	600 (28.5%)	227 (10.8%)	186 (8.9%)	143 (6.8%)	17 (0.8%)
R７	1,792	90	1,702 (100%)	649 (38.1%)	527 (31.0%)	195 (11.5%)	165 (9.7%)	145 (8.5%)	21 (1.2%)

	農業経営体	個人（１世帯）	法人経営体	非法人の組織経営体	地方公共団体・財産区
H27	2,866	2,802	38	22	4
R２	2,249	2,172	58	15	4
R７	1,792	1,716	66	8	2

資料：令和８年度盛岡の農林業

1　盛岡市の農業の現状について

【課題解決に向けた取組について】

Ⓐ 担い手不足の解消に向けた取り組み

農業者の後継者不足に伴う労働力不足が顕著であることから、こうした中で、農業・農村の持続性を高め、食と環境を次世代に伝えていくためには、戦略プロジェクトをはじめ、これまでの取組を推進するとともに、経営規模の大小や中山間地域といった条件にかかわらず、担い手農家、新規就農者の育成・確保に取り組む必要があります。また、農作業の省力化や農業者の所得向上のため、担い手農家への農地の利用集積・集約化を進めるほか、スマート農業などデジタル技術の活用や多様化する国内外の需要に対応する輸出などの取組を推進し、「稼げる農業」の実現を目指し、農業の持続的発展を図る必要があります。

Ⓑ 農業集落の地域力の強化

農村を維持し、次世代に継承していくために、所得と雇用機会の確保や農村に住み続けるための条件整備、農村における新たな活力の創出といった視点から、「地域政策」による施策を講じ、農村の持続性を高め、農業・農村の有する多面的機能を適切かつ十分に発揮していくことも必要です。良好な営農環境を維持し、市民・地域全体で農の恵みを享受するため、「担い手と兼業農家などが支え合う仕組みづくり」を確立していく必要があります。また、農地の持つ公益的機能の維持向上、また、自然災害、家畜疾病及び鳥獣被害への対応が求められていることから、農村における拠点施設の整備・活用や災害や鳥獣被害対策の強化を行う必要があります。

Ⓒ 強みを活かす農業の展開

約 30 万人の人口を抱え、かつ、宿泊業・飲食サービス業が集積する県内最大の消費地である強みを活かした農業の展開により、さらなる地産地消の推進を図る必要があります。また、多くの大学や研究機関が存在し、食料品製造業をはじめとした民間企業が数多く立地していることや県内外から多くの観光客が訪れる強みを活かし、農業と商工業や観光など他の産業や大学との連携・協働による盛岡産農畜産物の新たな価値を生み出す取組を強化する必要があります。

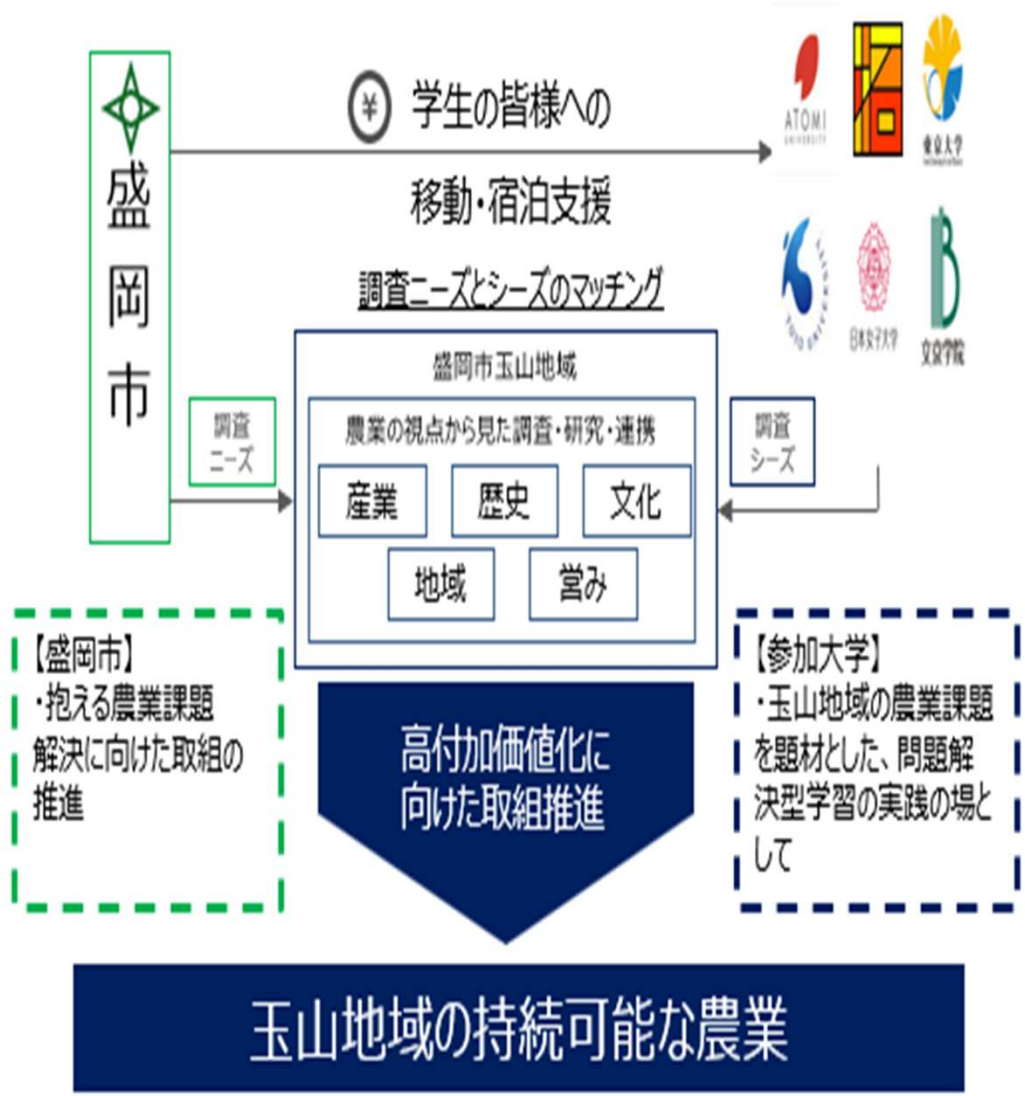
資料：もりおか農業･農村振興ビジョン2030

2 「文京区学生と創るアグリイノベーション事業」について

1 経緯

【平成31年２月】
文京区・盛岡市が友好都市提携
【令和３年度】
事業スタート
盛岡市玉山地域の農業の高付加価値化、課題解決を目指す産学官連携事業
参加：４大学
【令和５年度】
第１期終了
【令和６年度】
第２期開始
参加：５大学（９ゼミ）
対象：玉山地域から盛岡市全域に拡大
【令和７年度】
参加：６大学（10ゼミ）
【令和８年度】
参加：６大学（９ゼミ）
令和３年度～令和７年度期間中
延べ約400名が盛岡市を訪れる

2 事業のスキーム



2 「文京区学生と創るアグリイノベーション事業」について

3 盛岡市









事業の財源は

「もりおか元気応援寄附金
・・・ふるさと納税（個人版）」
※一部、「森林環境譲与税」

いただいた寄附金を予算化
⇒旅行手配業務委託の実施や報告会の開催
⇒活動内容や成果報告を市HPで公開
⇒寄付者や市民からの期待に応える「成果」を出さなければならない

2 「文京区学生と創るアグリイノベーション事業」について

4 研究テーマ

【各大学の調査活動紹介】



＜跡見学園女子大学＞

【調査テーマ】
（若手）農業経営者によるグループ化及びグループ活動促進に向けての方策調査研究
【参加学部】
観光コミュニティ学部（ゼミ単位で参加）
【第２期の主な調査活動】
・農業者へのアンケート及びヒアリング調査
・市内全域でのフィールドワーク
・農業者情報の収集と情報発信戦略の検討



＜東京大学＞

【調査テーマ】
日本型直接支払制度及び関連施策の実施状況とその効果に関する調査研究
【参加学部】
農学部（研究単位で参加）
【第２期の主な調査活動】
・市内全域でのフィールドワーク
・関係者へのヒアリング調査
・支援制度実施状況に関するＧＩＳ分析



＜拓殖大学＞

【調査テーマ】
・有害鳥獣防除の効果的な手法に関する研究
・雁喰豆の付加価値の創造に関する研究
・地域経済の活性化に関する研究
・スマート農業の導入による効果測定研究
【参加学部】
商学部・工学部・政経学部・国際学部（ゼミ単位で参加）
【第２期の主な調査活動】
・市内全域でのフィールドワーク
・関係者へのヒアリング調査
・有害鳥獣捕獲用罠設置場所の視察
・不規則的な動きをするロボットやドローン等による有害鳥獣防除試験
・ユートランド姫神産直の経営戦略に対する提言
・スマート農業を導入した圃場での環境要因測定（土壌水分量、湿度、気温、天候等）
・環境要因による作物への影響測定と、露地圃場における灌漑設備普及の可能性調査







＜東洋大学＞

【調査テーマ】
新規就農の農業経営体から見る、多角化経営の分析と将来展望について
【参加学部】
経済学部（ゼミ単位で参加）
【第２期の主な調査活動】
・市内全域でのフィールドワーク
・苺農家におけるスマート農業のファイナンシャル・マネジメントの分析



＜文京学院大学＞

【調査テーマ】
市産木材の皮等を用いたカゴやアート作品の制作及び販売

【参加学部】
経営学部（ゼミ単位で参加）
【第２期の主な調査活動】
・市内全域でのフィールドワーク（原料採取）
・木の皮の加工方法の研修
・道の駅「たみっと」での展示・販売会



＜日本女子大学＞

【調査テーマ】
雁喰豆の商品・加工技術の開発
【参加学部】
食科学部（ゼミ単位で参加）
【第２期の主な調査活動】
・市内全域でのフィールドワーク
・関係者へのヒアリング調査
・雁喰豆の商品開発から流通に関する調査
・商品化に向けての加工場の調査

ATOMI UNIVERSITY
東京大学
TOYO UNIVERSITY
日本女子大学
文京学院

3　当事業において学生の皆様へ期待すること

盛岡市が抱える農業分野の課題を題材として、これまでの学習成果の実践の場として実習・検証いただくとともに、地元関係者との積極的なコミュニケーションを通じて、地域農業の未来について地域の当事者が考える機会になればと思っております。

keyword
01
地域外からの視点

- ✓ 日本の最も大きな消費地である、東京都の消費者の視点から見た盛岡市における農畜産物の価値の再定義。
- ✓ 他の産地と比較した場合における盛岡市の農業課題の洗い出し。

keyword
02
既成概念に捉われない自由な発想

- ✓ 既成概念に捉われない、学生ならではの自由な発想から得られる、盛岡市の農業への示唆。
- ✓ 学生とのコミュニケーションから得られる先端知識等の農業者への知的な刺激。

keyword
03
盛岡市への興味関心の醸成

- ✓ 当アグリイノベーション事業を通じて、盛岡市に対して興味関心を持っていただけたらと思っております。

盛岡市・玉山村合併20周年事業














たみっと


ユートランド姫神


道の駅 もりおか渋民
Morioka Shibutami
たみっと
もりおか渋民



下半期も当市にてお待ちしております！

